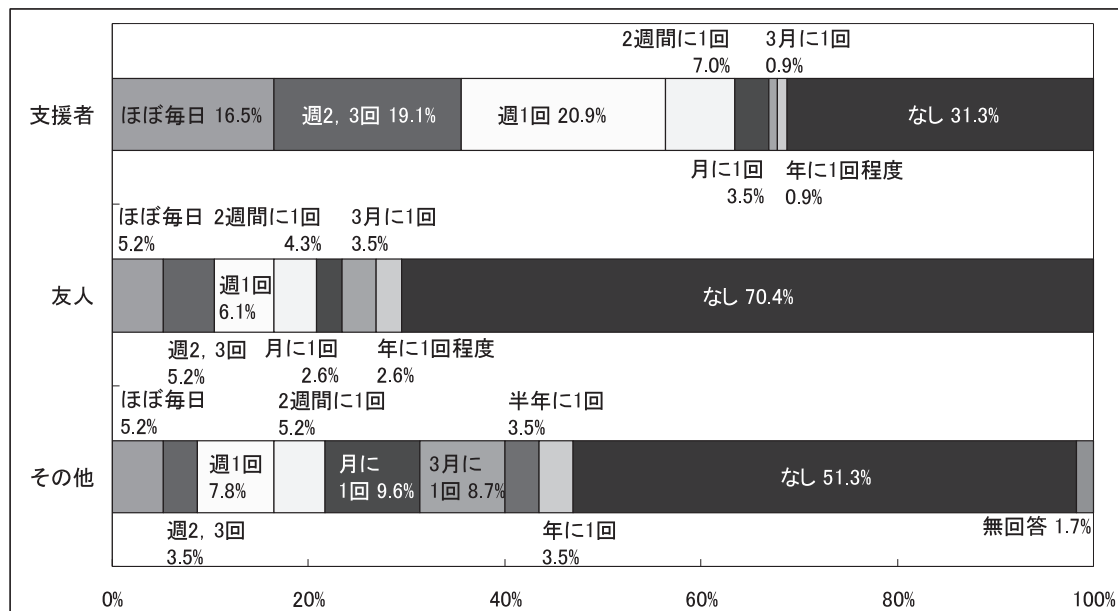


⑤ 来訪

地域生活者の 56.5%(65 人)は週 1 回以上支援者が訪問している。また 16.5%(19 人)の方が週 1 回以上友人の来訪があると回答している(図表 7-5-15)。なお、地域生活者の 1 人(0.9%)から、来訪者が宿泊することもあるという回答が得られている。

図表 7-5-15 来訪者の来訪頻度 地域生活者のみ

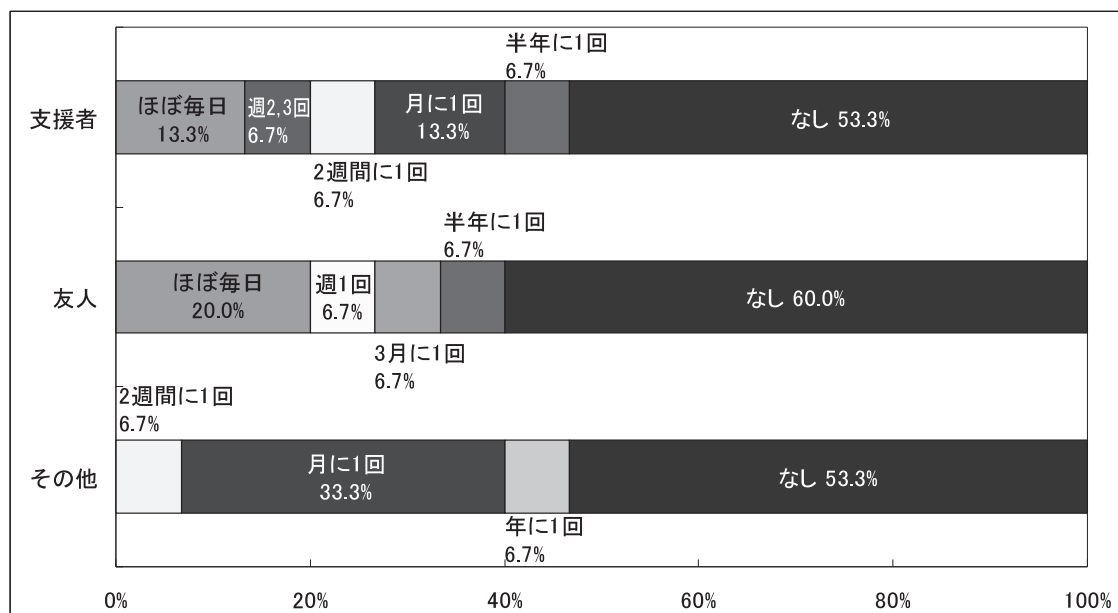


	支援者	友人	その他	支援者	友人	その他
	人数[人]			割合[%]		
ほぼ毎日(4～7回)	19	6	6	16.5	5.2	5.2
週2, 3回	22	6	4	19.1	5.2	3.5
週1回	24	7	9	20.9	6.1	7.8
2週間に1回	8	5	6	7.0	4.3	5.2
月に1回程度	4	3	11	3.5	2.6	9.6
3月に1回程度	1	4	10	0.9	3.5	8.7
半年に1回程度	0	0	4	0.0	0.0	3.5
年に1回程度	1	3	4	0.9	2.6	3.5
なし	36	81	59	31.3	70.4	51.3
無回答	0	0	2	0.0	0.0	1.7
合計	115	115	115	100.0	100.0	100.0

※四捨五入の関係で、割合の和は 100.0%にならない。

入院者については、20.0%(3人)は週1回以上支援者が訪問している。その一方で、26.7%(4人)は週1回以上友人の来訪があるとの結果であった。(図表 7-5-16)。

図表 7-5-16 来訪者の来訪頻度 入院者のみ



	支援者	友人	その他	支援者	友人	その他
	人数[人]			割合[%]		
ほぼ毎日(4~7回)	2	3	0	13.3	20.0	0.0
週2, 3回	1	0	0	6.7	0.0	0.0
週1回	0	1	0	0.0	6.7	0.0
2週間に1回	1	0	1	6.7	0.0	6.7
月に1回程度	2	0	5	13.3	0.0	33.3
3月に1回程度	0	1	0	0.0	6.7	0.0
半年に1回程度	1	1	0	6.7	6.7	0.0
年に1回程度	0	0	1	0.0	0.0	6.7
なし	8	9	8	53.3	60.0	53.3
無回答	0	0	0	0.0	0.0	0.0
合計	15	15	15	100.0	100.0	100.0

※四捨五入の関係で、割合の和は100.0%にならない。

⑥ 家事

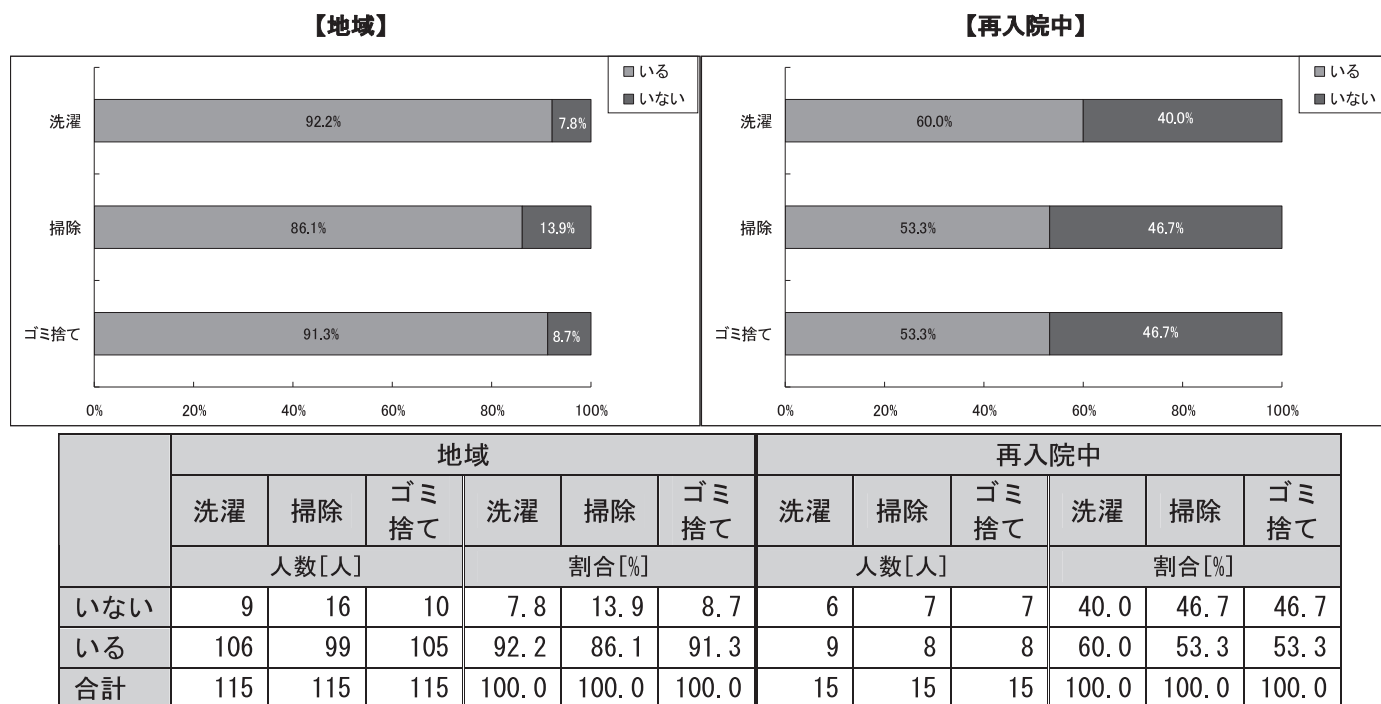
代表的な家事として「洗濯」「掃除」「ゴミ捨て」を対象にし、その実施状況を整理した(図表 7-5-17)(図表 7-5-18)。

地域生活者は、「洗濯」「掃除」「ゴミ捨て」を 90%前後の方が実施している。一方、入院者は 55%前後の方が実施している。地域生活者について、「洗濯」「掃除」「ゴミ捨て」はそれぞれ週 1 回以上 87.8%、65.2%、85.2%の方が実施していた。次に、頻度を見ると「ゴミ捨て」は「週 2, 3 回」が多くなっており、地域のルールに従った捨て方がなされていると推測される。なお、これらの家事はヘルパー(支援者)と一緒にやるか、促されてやる人が多いとのことであった。

一方、入院者は「洗濯」「掃除」「ゴミ捨て」がそれぞれ、40.0%、46.7%、46.7%の方において未実施となっている。

このような家事の形態を地域生活者の 18.3%、入院者の 13.3%が変えていきたいと考えているようである(図表 7-5-19)。自由記述によれば家事については基本的には自分で行えるようになりたいと考えているようである。

図表 7-5-17 家事の実施状況

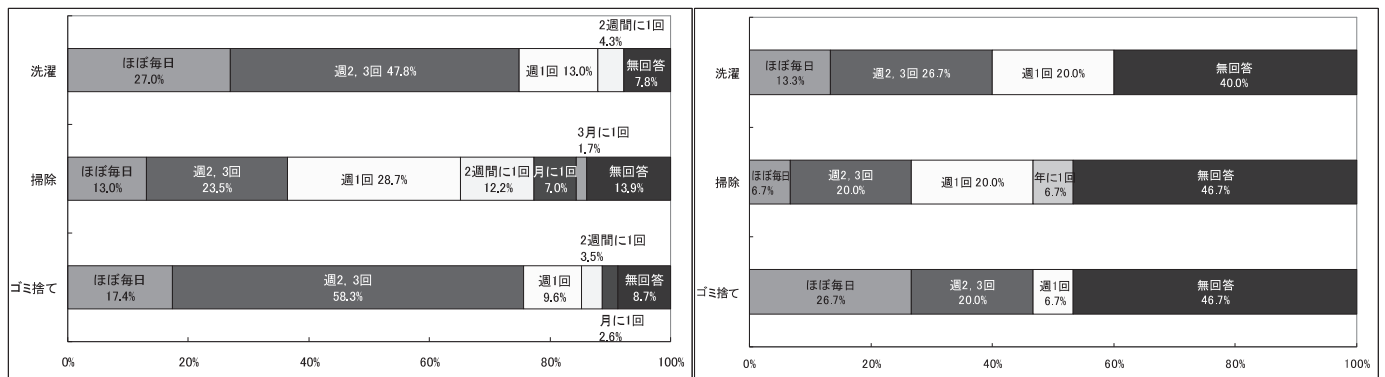


※それぞれ「実施している」と回答した方の人数、割合を算出した(分母は地域生活者 115 人、入院者 15 人)。

図表 7-5-18 家事の実施頻度

【地域】

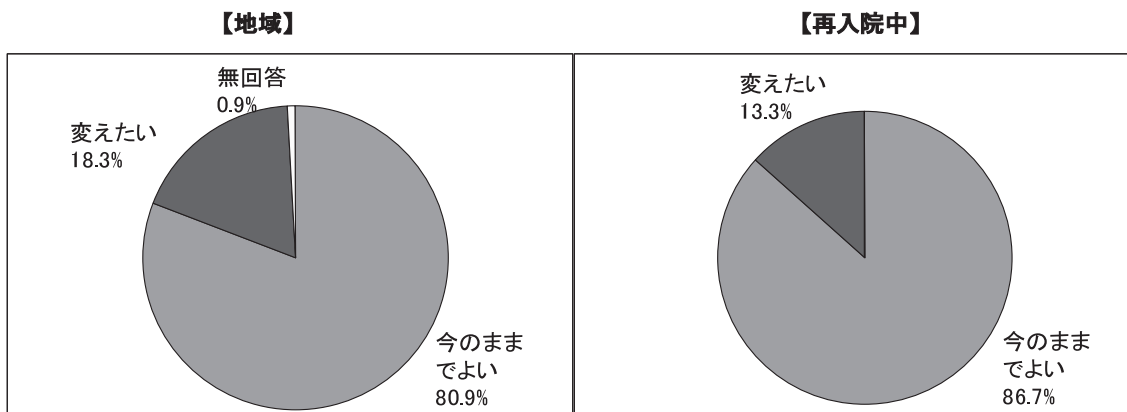
【再入院中】



		洗濯	掃除	ゴミ捨て	洗濯	掃除	ゴミ捨て
		人数[人]			割合[%]		
地域	ほぼ毎日(4~7回)	31	15	20	27.0	13.0	17.4
	週2, 3回	55	27	67	47.8	23.5	58.3
	週1回	15	33	11	13.0	28.7	9.6
	2週間に1回	5	14	4	4.3	12.2	3.5
	月に1回程度	0	8	3	0.0	7.0	2.6
	3月に1回程度	0	2	0	0.0	1.7	0.0
	半年に1回程度	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	年に1回程度	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	無回答	9	16	10	7.8	13.9	8.7
	合計	115	115	115	100.0	100.0	100.0
再入院中	ほぼ毎日(4~7回)	2	1	4	13.3	6.7	26.7
	週2, 3回	4	3	3	26.7	20.0	20.0
	週1回	3	3	1	20.0	20.0	6.7
	2週間に1回	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	月に1回程度	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	3月に1回程度	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	半年に1回程度	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	年に1回程度	0	1	0	0.0	6.7	0.0
	無回答	6	7	7	40.0	46.7	46.7
	合計	15	15	15	100.0	100.0	100.0

※四捨五入の関係で、割合の和は100.0%にならない。

図表 7-5-19 家事の実施に関する将来の希望



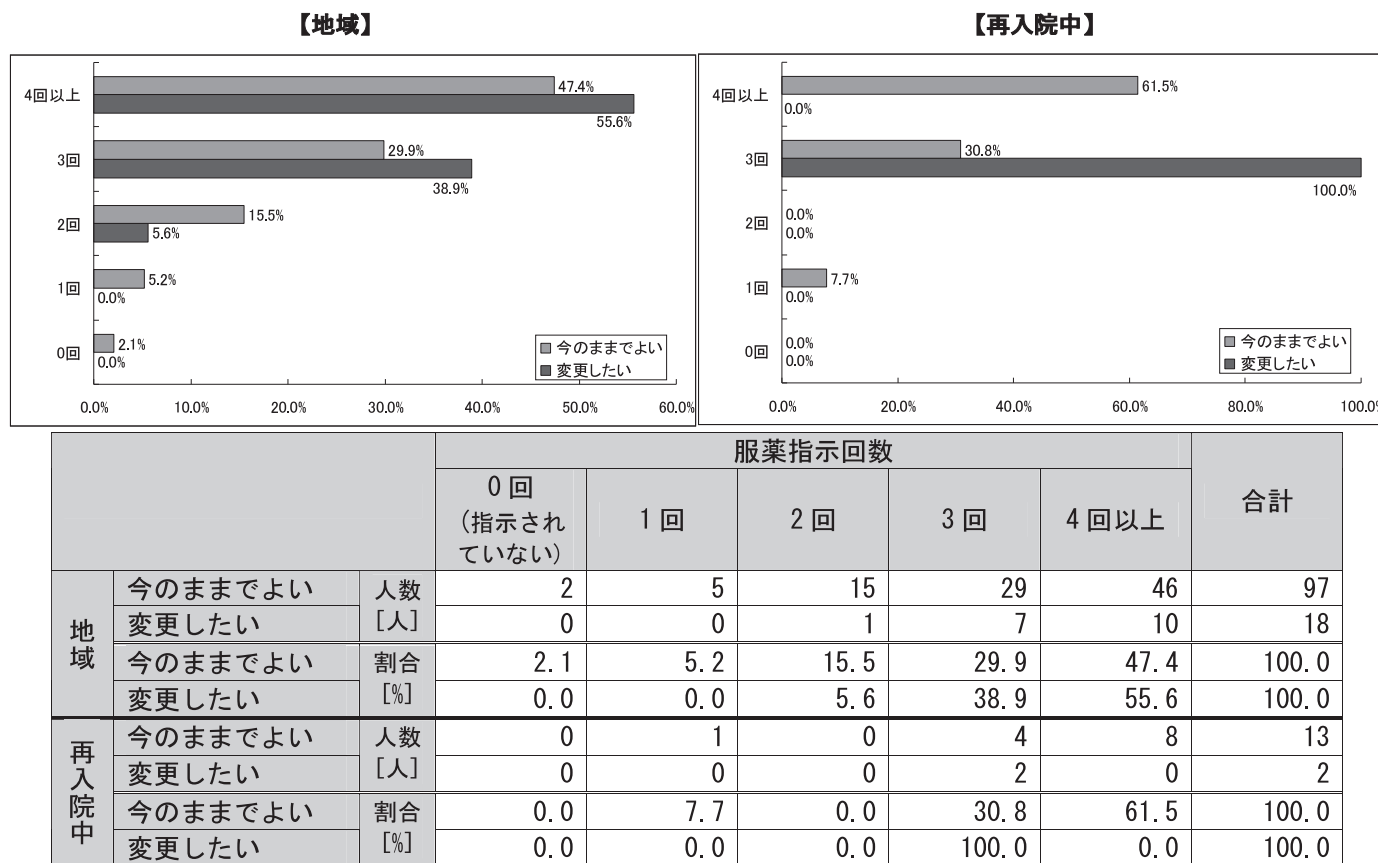
	地域		再入院中	
	人数[人]	割合[%]	人数[人]	割合[%]
今のままでよい	93	80.9	13	86.7
変えたい	21	18.3	2	13.3
無回答	1	0.9	0	0.0
合計	115	100.0	15	100.0

※四捨五入の関係で、割合の和は100.0%にならない。

⑦ 服薬

服薬状況を詳細に示したのが以下である(図表 7-5-20)。服薬回数が多いほど変更したいと考える割合が高かった。服薬回数を変更したい理由を整理すると次のような点が挙げられた(図表 7-5-21)。

図表 7-5-20 服薬状況と将来の希望



※各行の合計値を分母として割合を算出した。

※四捨五入の関係で、「割合」の和は 100.0%にならない。

図表 7-5-21 服薬回数を変更したい理由

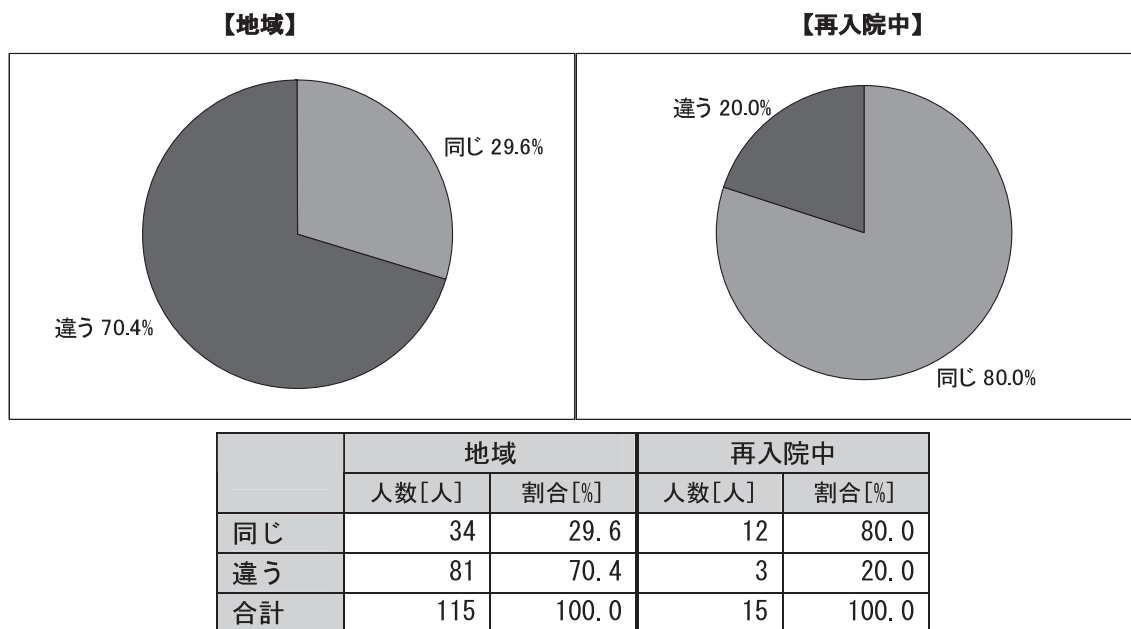
[服薬のつらさ]

- ・ 多すぎるので減らしてほしい。
- ・ 薬を減らすと楽になる。
- ・ 薬の内容を変えたい。
- ・ 眠前薬を飲むと昼間に眠気が残ることがある。
- ・ しんどくなったときだけ飲むようにしたい。

(6) 平日と休日の過ごし方

平日と休日の過ごし方の違いを聞くと、地域生活者の 70.4%が「違う過ごし方をしている」と回答し、入院者は 20.0%であった(図表 7-6-1)。

図表 7-6-1 平日と休日の過ごし方の違い



具体的な違いを整理すると図表 7-6-2 になる。平日はデイケア等の活動があるが、土曜日、日曜日等はないため、自宅等でリラックスして過ごすことが多いようである。デイケア等に通うことで平日と休日とにメリハリが付いていると推測される。

図表 7-6-2 平日と休日の過ごし方の違い(主な具体的内容)

	平日の過ごし方	休日の過ごし方
1	デイケアに行く。	デイケアがないので自宅でテレビを見る。
2	通所、地域活動支援センター、通院。	家事や休息、リラックスする時間。
3	－	日曜のみ自炊している。
4	訪問看護、ヘルパーの訪問。	運動とパチンコ。
5	食事はデイケア等とする。	家族が食事の世話をする。

以上を踏まえると、デイケア等に通うことが生活のリズムを作り出す源泉の 1 つになっていると考えられる。そうすることで生活にメリハリができていると推測される。

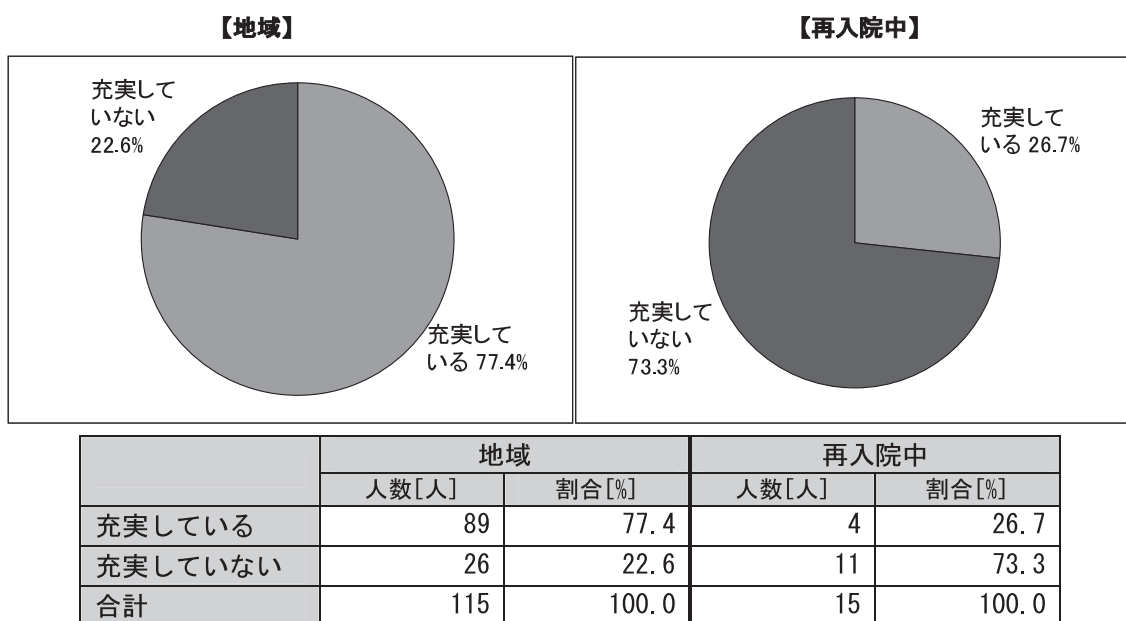
(7) 生活の充実度

地域生活者と入院者の生活充実度を比較すると、地域生活者の 77.4%が充実していると答えている。入院者は 26.7%であり、地域生活者の方がより充実した生活を送っていると考えられる(図表 7-7-1)。

具体的な理由を聞くと、地域生活者で充実している理由として最も多かったのは、地域生活を送ることで「開放感」を得られたという回答であった。それまでの規則に縛られた生活から、自分の判断で自由に食事をし、テレビを見たりすることが楽しいとする回答が多かった。その他には支援機関の活動を挙げる方も複数名いた。

一方地域生活者の充実していない理由としては、「家庭・異性関係」と「収入面」を挙げる方が多かった。特に「収入面」では仕事をしたいのに仕事ができない苦痛や、収入が足りないために食事等を節約している等の回答があった。

図表 7-7-1 生活の充実度



図表 7-7-2 生活の充実度（具体的な理由）

	充実している理由	充実していない理由
地域	[支援機関の活動] ・ デイケアで色々なプログラムを楽しんでいる。 ・ ヘルパーや看護師が優しい。 [開放感] ・ 前は援護寮で規則に縛られていたが、今はゆったりと時間が流れている。 ・ 余暇活動を見つけることができた。 ・ 家族と離れて生活することができた。 ・ 自分のペースで生活を送ることができるので嬉しい。 ・ 毎日のパソコンをするのが楽しみ。 [ルール] ・ 服薬、断酒、睡眠の安定を保っている。 ・ 入院しているときのように他患者とトラブルを起こさなくなった。 [その他] ・ 退院してよかったと思っているから。	[支援機関の活動] ・ 障害者自立支援法の影響で祝日まで通所をする事になったので、祝日は休みたい。 [家庭・異性交際] ・ 女性の存在がない。 ・ 結婚して家庭を持ちたい。 [余暇活動の充実] ・ やりたいことをやりきっていない。 ・ 自分の趣味の話をしたい。 [収入面] ・ 仕事がしたい。 ・ 収入が足りない。 ・ 生活費がもう少しあれば、1,500→¥2,000/日欲しい。それ以外は満足している。 ・ (体力的に)働けない。 ・ 50点、もう少し仕事がしたい、親孝行したい、親にプレゼントしたい。 [人間関係] ・ GH/CH やデイケアの人間関係が難しい。 [その他] ・ 今の生活で不都合はないが、何かできることを探したい(具体的に何、ということはないが)。郷里に帰りたい。 ・ 頻尿、寝小便、脱糞を治療したい。
再入院中	・ 入院生活をしていても特に不便はない。	[支援機関の活動] ・ 地域活動支援センターへ行きたい。 [家庭・異性交際] ・ 家庭が欲しい、交際相手が欲しい。 ・ 結婚したい。男として格好良くなりたい。 [収入面] ・ 時間がもったいない。簡単な仕事が出来たらよい。 ・ 働きたい。 [人間関係] ・ 周りのスタッフに気を使う。 [その他] ・ 家に帰りたい。

8 考察

(1) 分析の観点

ここまでは個別の質問を中心に分析を進めてきたが、ここからは精神障害者個々人の生活全体に焦点をあて、退院促進支援事業を活用して地域生活を始めた方の生活の実像に迫りたい。ポイントとしては、①生活スタイル、②希望する生活スタイル、③支援状況に焦点を当てて分析を進める。

① 生活スタイル

地域生活を始めた方が今現在どんな生活をしているかを浮き彫りにしていくことを目的としている。生活の営みは、朝から夜まで途切れることなく続いている。これは、精神障害者でも健常者でも同じである。①では、そのような一日の生活の流れがどのような状態にあるのかを全体として捉え、実像に迫る。多くの場合、健常者とそれほど変わらない生活を送っていると考えられる。

また、支援終了時から現在に至るまでの生活スタイルの変化についても捉えていく。

② 希望の生活スタイル

今の生活スタイルを変えたいかどうかという視点である。図表 7-7-1 にもあるように、地域生活を送っている方の 77.4%は今の生活に満足しており、充足していないとする 22.6%の方も、今の生活をもっとよくしたいという視点で充足感を表現している。②では、退院促進支援事業を活用して地域生活を始めた方が今の生活スタイルをどう捉えているか、どんな生活スタイルを希望しているかを明らかにする。

③ 支援状況

地域生活を始めた方がどんな支援を活用して、地域生活を送っているかを整理する。退院促進支援事業の支援が終了するとそれで支援がすべて終了してしまうということではなく、事業終了後も本人が自立して生活を送るための支援を継続して実施する仕組み作りを考えることが非常に重要なポイントであると言われている。そこで、退院促進支援事業を活用して地域生活を開始した方が今現在、どのような支援体制のもとに生活をしているのかを明らかにする。

上記の他、退院促進支援事業を活用して地域生活を始めた方の中には、入院して退院された方もいる(調査対象者のうち 20.8% 図表 6-3-2 より)。こういった方と再入院することなく、地域での生活を継続されている方とでは生活スタイルが違うのではないかと指摘があった²¹。したがって、その影響についても分析を行った。

なお、本章では全体像を把握するために、調査票に基づくインタビュー調査で得られた設問内容を下表にある定義で、ダミー変数²²として分析を行った。理由としては各設問個々の分析を行うのではなく、調査対象者の生活全体像を見るためにすべての変数を総合的に捉えるためである。

²¹ 財団法人精神障害者社会復帰促進協会主催 平成 21 年度退院促進支援事業関係者研修会(2009 年 12 月 12 日実施)。

²² ダミー変数とは値が 2 値の変数のこと。複数の選択肢がある場合も、一定の定義にしたがい 2 値にして分析をしやすくしている。

図表 8-1-1 生活スタイル変数

生活スタイル変数	変数定義
睡眠状況	「5時から8時に起床」かつ「22時から0時に就寝」する方
食事状況	「3食摂取」かつ「主な調理方法が自炊」かつ「個食(一緒に食べる人がいないことが多い)」方
余暇状況	「週に1回以上」余暇活動を行う方
外出状況	「週に1回以上」外出する方
来訪者状況	「ヘルパーが週1回以上訪問」するが「友人の訪問はない」方
家事状況	「洗濯」「掃除」「ゴミ捨て」を行っている方
服薬状況	「服薬」を行っている方

生活スタイル変数(表 8-1-1)は前述の集計結果から、過半数を超える回答の組合せを抽出し、それぞれの生活スタイル変数として構成した。

図表 8-1-2 希望する生活スタイル変数

希望する生活スタイル変数	選択肢内容	
睡眠状況	「足りている」	「足りていない」
食事状況	「足りている」	「足りていない」
余暇状況	「今のまま継続したい」	「変更したい」
外出状況	「今のまま継続したい」	「変更したい」
家事状況	「今のまま継続したい」	「変更したい」
服薬状況	「今のまま継続したい」	「変更したい」

希望する生活スタイル変数(図表 8-1-2)は2値で整理をした。

表 8-1-3 支援状況変数(支援あり、なしの2択)

支援状況変数	主な内容
受診	診療(精神科病院、診療所での受診も含む)
医療機関利用(診療以外)	デイケア・ナイトケア・デイナイトケア、作業療法、心理面接、相談
訪問による支援の利用	訪問看護、居宅介護(身体、家事、通院)、行動援護、生活介護、自立訓練(生活訓練)訪問型、移動訓練
通所による支援の利用(就労以外)	自立訓練(生活訓練)通所型、自立訓練(機能訓練)、(旧法)授産施設、(旧法)福祉工場、作業所
通所による支援の利用(就労)	就労移行支援、就労継続支援(A型、B型)、福祉工場
宿泊/住居による支援の利用	短期入所、施設入所支援、共同生活介護、自立訓練(生活訓練)宿泊型、共同生活援護、(旧法)福祉ホーム、(旧法)精神障害者生活訓練施設、福祉ホーム、居住サポート事業、救護施設
相談支援の利用	障害者自立支援法に基づく相談支援事業、保健所・保健センター、精神保健福祉センター、市町村障害福祉・生活保護・高齢者福祉課、社会福祉協議会、民生委員
居場所支援の利用	地域活動支援センター(I型、II型、III型)
インフォーマルな支援の利用	ボランティア、ピアサポーター

※「旧法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」(いわゆる、精神保健福祉法)を示す。

支援状況変数(図表 8-1-3)は、調査項目を9項目に分類した。

② 生活スタイルの全体像

図表 8-1-1 で示した変数を用いて、今回調査対象となった方の現在の生活スタイルの全体像を整理した。図表 8-2-3 は地域生活を始めた方のすべての生活スタイルを表したものである。組合せとしては、全部で 29 パターンの生活スタイルが抽出された。組合せは 19 パターンであり、上位 5 位までで半数(50%)を超えた。

図表 8-2-3 地域生活を始めた方の生活スタイル²³

組合せ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
睡眠状況	×	○	×	○	×	○	○	○	×	×
食事状況	×	×	×	×	○	×	×	○	×	○
余暇状況	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○
外出状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
来訪者状況	×	×	○	○	×	○	×	×	×	○
家事状況	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
服薬状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人数[人]	18	17	13	8	7	6	6	4	4	3
割合[%]	15.7	14.8	11.3	7.0	6.1	5.2	5.2	3.5	3.5	2.6

図表 8-2-3 地域生活を始めた方の生活スタイル(続き)

組合せ	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
睡眠状況	○	○	×	×	×	○	○	×	○	×
食事状況	×	○	×	×	○	○	○	×	×	○
余暇状況	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○
外出状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
来訪者状況	×	○	○	○	×	×	○	○	×	×
家事状況	×	○	×	○	○	○	○	×	×	○
服薬状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
人数[人]	3	2	2	2	2	2	2	2	2	1
割合[%]	2.6	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	0.9

図表 8-2-3 地域生活を始めた方の生活スタイル(続き)

組合せ	21	22	23	24	25	26	27	28	29
睡眠状況	×	○	○	○	×	×	×	○	×
食事状況	×	○	×	×	○	○	×	×	×
余暇状況	○	○	○	○	○	×	×	×	×
外出状況	○	○	○	×	×	○	○	○	×
来訪者状況	×	○	○	×	○	○	×	○	×
家事状況	×	×	×	○	×	○	×	×	○
服薬状況	○	○	×	○	○	○	○	○	○
人数[人]	1	1	1	1	1	1	1	1	1
割合[%]	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9

²³ ○は図表 8-1-1 の定義に合致する。×は合致しない。